

## 顕 彰 状

鈴木了二氏は、1944年東京都に生まれ、1968年早稲田大学理工学部建築学科を卒業後、同年竹中工務店に入社、同社より楨総合計画事務所に出向、1970年にfromnow建築計画事務所を設立し（1982年、鈴木了二建築計画事務所に改称）、1977年に早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻修士課程を修了した。

建築家としての活動は多岐に渡り、1973年より建築、写真、映画、家具、書籍、インスタレーションなど、ジャンルの違いに関係なくナンバリングした「物質試行」シリーズを開始。1987年「物質試行24 絶対現場1987（展覧会／田窪恭治、安斎重男と共同作業）」、1998年「物質試行38 熊本県立あしきた青少年の家（建築／2004年公共建築賞・優秀賞）」、2012年「物質試行52 DUBHOUSE（映画／七里圭と共同監督）」など、現在までにそのシリーズは59を数えている。

中でも瀬戸内海の小島に計画した宿泊施設とレストランによる複合施設である「物質試行37 佐木島プロジェクト」は1997年度日本建築学会賞作品賞を受賞、「物質試行47 金刀比羅宮プロジェクト」は自然と伝統と現代性を融合させた手法を高く評価され、第18回村野藤吾賞、第18回日本建築美術工芸協会賞、また、卓越した芸術作品と認められるものを制作した者および芸術の進歩に貢献する顕著な業績があると認められる者に対して授与する賞である日本藝術院賞を2008年に受賞するなど、日本を代表する建築家として評価されている。

鈴木氏は西欧主導型の一義的な“空間”概念への批判として、これまでの歴史が除外してきた“空洞”や“空隙”に注目し、そこに新たな解釈を加えた物性の高い造型を介入させることで、極めて多様な強度をもった独自の表現世界を構築してきた。また映像や美術にも造詣が深く、すぐれた評論を執筆し、映画や写真のほかインスタレーションも行うなど、横断的かつ独創的な活動を長年に渡り展開している。建築家としての職能を大きく超えたその存在は世界を見渡しても唯一無二であると言っても過言ではなく、建築はもとより広く芸術や表現の世界に多大な影響を与えて来た功績は計り知れない。

本学では1997年から早稲田大学専門学校（現在の早稲田大学芸術学校）および理工学部で教鞭をとり、2004年から2010年まで早稲田大学芸術学校長を務めた。また2008年に大隈記念学術褒賞記念賞を受賞、2015年に早稲田大学栄誉フェローを授与されるなど、研究・業績・大学運営いずれの分野においても顕著な功績と貢献を残している。

ここに早稲田大学は、鈴木了二氏の顕著な功績を称え早稲田大学芸術功労者として表彰し、その栄誉を永く顕彰するものである。

2025年12月4日

早稲田大学